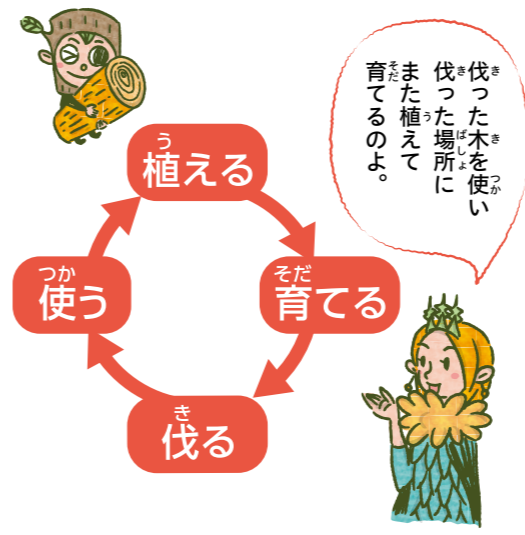




林業って なんだろっ?!

人の手で森を作る

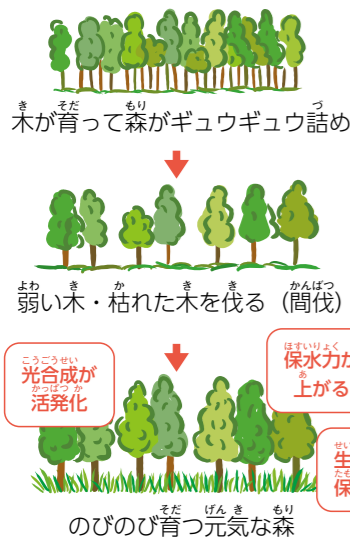
わたしたちの周りには、机や椅子、家の柱や床など、木を利用して作られたものがたくさんあります。これらの木は、伐って使うことを目的に、人間が植えて育てた木です。苗木を植えてから、木材として利用できるようになるまでには、40〜50年ほどの期間がかかります。この期間に、人間がいろいろな手入れをしてあげなければいけません。



人の手によって植えられた木は、人の手できちんと管理していくことが大事なね。

間伐は、木の成長を見ながら、5〜10年ごとにくりかえし行われるよ。

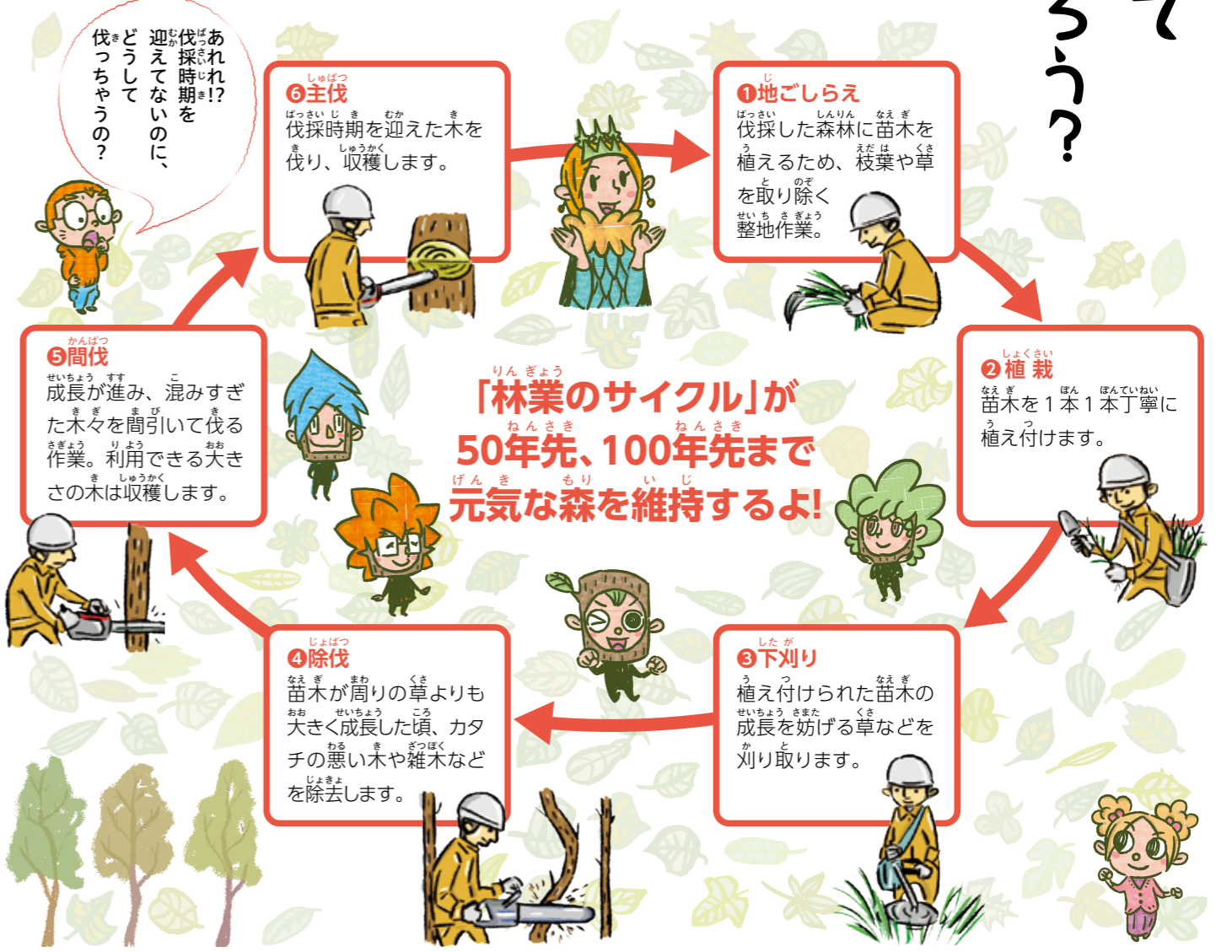
間伐は1回だけ?



木が育つと、隣の木と葉や枝が重なったり、日光が届かなくなったりして成長が妨げられてしまいます。木と木の間に空間をつくるために、育ちの悪い木や枯れかかった木を切って間引くことを間伐といいます。木と木の間に地面に日光が届くようになれば、下草や中低木が元気に育つようになります。大量の雨が降っても、山がスポンジのような役割を果たせるようになります。木の成長とともに根も成長して、しっかりと土をつかむので、土砂崩れが起こりにくくもなります。また、木やほかの植物の光合成も活発に行われます。草花を食べる動物や昆虫などがすみ、その動物や昆虫を食べる生きものも住みやすくなることにより、生態系を守るにつながります。

ギョウギョウ詰めは、ダメ!

「林業のサイクル」が 50年先、100年先まで 元気の森を維持するよ!



伐り出された木は、何に使われているのかな?

今、森から伐り出されている木のほとんどは、戦後に植えられた杉や松なので、すでに50〜60年が経過して、主伐に適した時期を迎えた木です。これらは、一般住宅の柱や梁、小さな木材を接着剤で組み合わせて作られた集材材として、建築に使用されます。建築以外にも、机や椅子、紙製品、おもちゃやお箸など様々なものに加工され、私たちの生活で使用されています。また、木や枝を細かく砕いてチップにすることで、火力発電やペレットストーブの燃料としても使用されています。身近なところにもたくさん木が使われているので、みなさんも探してみてください。

